

市内活動グループ訪問記

ジャマジャマ

せむこの時間が流れていくな
『ほしゅーん』に『おしゃべり』



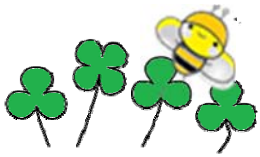
早味きの桜が咲き、明るく陽気な春を感じた季節となりました3月4日(金)に『特定非営利活動法人ほっとほしゅーん』さんへお邪魔しました。当日はお忙しい中、所長の谷口薫さんにお話を伺いました。★『ほしゅーん』さんについて教えてください。

☆指定障害福祉サービス事業所、生活介護事業所、通所の口中活動の場所です。人数は男性の名、女性7名の計13名、職員は60名のおひかりの会の名(の)の時もあつた活動しています。通所方法は、バス、電車、徒歩、送迎などです。以前は地域作業所として活動していましたが、同じ考えを持った4つの事業所で法人を立ち上げ、今に至っています。今の『ほしゅーん』になってから約10年になります。★主な活動はどのようなものですか？

☆段ボール組仕切りの組み立て、ピース製作、工作、シクリエーションです。段ボール組仕切りは段ボールの仕切りを作る作業です。仕切りは大・小のあります。この工程に分けて作業を行います。切り取り線に沿って切り分けた仕切りは、桁形に組み、出来上がった製品はたたまれ、紐をかけて出荷する作業です。



きっちり組み立てられます



紐をかける作業は職員さんが機械を使って行います。大きなこの部屋にそれぞれテーブルが2個ずつあり、班に分かれて分拍し作業を行います。分拍作業は毎日変わる、この作業も経験が積み重なっています。

作業にあたっては準備から片付けまで、例えばテーブルシートを敷いたり、エプロン、手袋の準備なども自分たちで行っています。



春のおしゃれにピッタリ!

作業の過程においても、きまりごとは自分たちでやるように常に職員から働きかけるのは、難しい時には利用者さんから言ってもらったり、時に待ちの姿勢でいることです。障がいの種類により、お話が大好きだったり、言葉がなかなか出なくなったりといふことがありますが、そういう時も言葉がでるまで待ちますというのです。職員が一緒に行えば早く終わるのでしょが、それを待たせたり、出来ぬことも出来なくなってしまうし、体力や機能の低下を少しでも緩やかにする意味もあるというのです。皆さん、もくもくと集中して作業を行なっています。

いつもは、もっとゆったりしていると思いますが、今日は取材が来るからむねむねと緊張感があります。いつもより頑張るシャキーンとしているんですよ、穏やかな笑顔でお話しを聞かせて。

取材中、「こちらに向かって小さく手を振ってくれ女性、思わずこちらも手を振って返す、なんかほっこりです。その後はすべて作業に戻り集中。」お話を聞かれましたか「おしゃべり女性に対しては、所長さんが「先ず、自分の名前を言いついたら相手の方向に顔を振り向いていじめる、私の名前を言います。おしゃべりなですよ

か？」と問い直します。自宅だけでなくグループホームから通ってきている方もいるため、集団の中でも生活していけるように集団での決まり事を伝えるそうです。作業と休憩のメリハリを付け、この先に進んだいじめることになりました。

所長さんをはじめ、職員さん達の姿勢が利用者さんに伝わっているからか、もくもくと作業をしながらも何か穏やかな空気を感じます。

ピース製作は、マスクチェーン、マスクチャームネックレスなど、ピースは職員さんの方で準備し、ピースの色の順番を決めて糸を通すのもあれば、色の順番はお任せで作った物もめり、これもマスクに仕上がっています。店頭販売、またはめぐり会館のハンドメイドショップ『バオバン』にて販売しています。マスクのおしゃれいかがですか。

他にも、「コロナ禍で行動が難しいですが、茶道体験、壁面作り、季節の行事などを行ってほしいです。この原稿が発行される頃は桜が咲いているかな。そうしたらお花見もいじめるわ。」(植野・小E)



♪春の弥生

結構なお手前ですね!

*特定非営利活動法人ほっとほっとさーくる

所長 谷口薫

〒252-0231

相模原市中央区相模原1-5-13

TEL 042-810-7617

